

**ECHIGO-
TSUMARI**
ART FIELD 2025

女衆のおもてなしと
津南の食をいっしょに楽しむ
演劇レストラン



北越雪譜と、そして秋山記行

上郷クローブ座レストラン

企画・料理: EAT&ART TARO
脚本・演出: 原倫太郎+原游

EAT&ART TARO プロデュースで2015年にスタートした演劇レストラン。地元のお母さんたち・女衆（おんなしょ）が、毎年テーマを変えながら明るく楽しくお芝居風にお料理を提供します。お料理は豪雪地・津南の豊かな雪解け水に育まれたお米、お野菜、お肉を使い、地場産物の魅力を演劇といっしょに楽しめます。



お料理メニュー

2025年は昨年好評の脚本を再公演。妻有ゆかりの随筆『北越雪譜』と『秋山記行』をベースに豪雪地の暮らしが垣間見えるお芝居を披露します。パワーアップした女衆のしゃべりとおもてなしも必見です。お母ちゃんたちの笑顔にほっこりできる他にはないランチをどうぞ！

津南の旬の素材を活かした彩り豊かなお食事が食べられる！

期間 7/19(土) - 8/31(日)の 土 日 祝

時間 12:00 - 12:50

料金 大人 3,000円 / 子ども 2,000円

※完全予約制 ※空席がある場合には当日予約もお電話にて承ります。
※共通チケット提示、または入館料が別途必要です。

場所 越後妻有「上郷クローブ座」(津南町上郷宮野原7-3)



予約はこちら



当日のお問い合わせ
025-755-5363

クロップ
ミルクティー

最高のおにぎり

雪下
にんじん
ゼリー

津南ポークと
焼き野菜

とうもろこし&
とうもろしスープ

津南のお出汁



お料理メニュー

上郷クロップ座レストランの

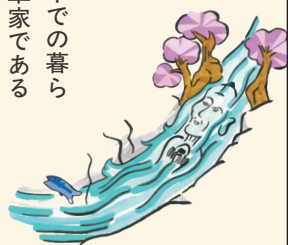
『北越雪譜』と 『秋山記行』

『北越雪譜』は、越後の雪の中での暮らしを伝えるために、商人・随筆家である鈴木牧之（1770年、越後魚沼郡塩沢生まれ）が随筆した江戸時代後期のベストセラーです。販売部数は700部を超えると言われていました。怪奇現象などの逸話も多いですが、雪国で暮らす人々が雪と戦いながら厳しい生活を送っているということを伝える貴重な歴史資料と位置付けられています。また『秋山記行』では、牧之が秋山郷の集落に1週間訪れ、そこで暮らす人々の衣食住、風俗習慣、信仰などを絵と文章で克明に記しています。

越後妻有

「上郷クロップ座」

舞台は、津南町上郷地区にある2012年に閉校した旧上郷中学校。パフォーマーのレジデンス施設、稽古場、作品発表の場である仮設劇場と、津南の女衆（おんなしよ）が出演するレストランを併設した越後妻有「上郷クロップ座」は、さまざまなスタイルのパフォーミングアーツ（舞台芸術）を楽しめる拠点として誕生しました。「上郷クロップ座レストラン」では、演劇的な手法を用いて料理、素材、土地の物語とゆつくり向き合う時間を大切に、津南の女衆が旅人をお迎えします。



アーティスト／スタッフ

企画・料理監修

EAT&ART TARO

食をテーマに活動をしている現代美術作家。大地の芸術祭では、「ザキウリショー」や、「ザおこめショー」など妻有の食を実際に食べて楽しむ作品を発表。妻有に関わりだして13年になる。



演出・脚本・小道具・映像制作

原倫太郎

現代美術家。体験型アートを制作している。「瀬戸内国際芸術祭」、「北アルプス国際芸術祭」、「大地の芸術祭」などに参加。2024年の大地の芸術祭では越後妻有里山現代美術館 MONETにおいてメイン作品を制作、また企画展「モノ船長と87日間の四角い冒険」をキュレーションした。



演出・脚本・イラスト

原游

画家。画布、木枠、色層などの絵画のコードをテーマに絵画、立体を制作。2017年「アブラカブラ絵画展」（市原湖畔美術館）、2020年「絵画のミカタ」（群馬県立近代美術館）などに参加。原倫太郎とのユニットで多くの芸術祭に参加。また、個展も多数開催している。



津南の女衆

石沢恵理子
江村あゆみ
江村かおる
大関和子
上村千恵子
久保田栄子
島田睦
高波千代子
キッチン担当
奈木理恵子
語り
森口敬造
音楽
たゆたう
pop/jective、他
マネージメント
稲垣素子
中島志保子
房田るみ子
森口悦子
森口恵子
若井加代子
山田晴美
涌井かをり
（五十音順）
音響・照明
涌井かをり
藤井円香
（TC越後妻有）



JAPAN CULTURAL EXPO 2020



Photo: Osamu Nakamura

